

「明日の京都」ビジョン懇話会 産業・労働部会

○ はじめに

地球環境との共生を果たし、持続的な発展が可能な社会を実現するためには、今回検討を行った産業技術や生活・労働分野に止まらず、あらゆる分野でイノベティブ(革新的)な構造転換を成し遂げなければならない。

それには、革新的で先導的なモデルを作り、普及を図る地域活動が求められ、この活動こそが世界の変革を牽引していくのであり、私たちは今回の部会提案で、そうした方向性を示すこととした。

京都には歴史的・文化的資産があり、多くの大学や研究機関から生まれる技術や知識の集積がある。また、南北に長く、大都市から中山間地域まで豊かな資源を有する地域があり、そこには、ヒューマンサイズのコミュニティが今でも色濃く残っている。こうした地域だからこそ、イノベティブなモデル作りができるのである。

京都議定書誕生の地であるこの「京都」こそが、新しい時代の幕開けにふさわしい地であり、世界を先導する創造的モデルを次の4つの視点を基本に提案するものである。

○ 4つの視点での提案

1 持続的な成長を可能とする産業づくり～地球環境保全を前提とした産業構築～

京都の資産やポテンシャルを生かし、低炭素時代を迎えた今、CO2 削減の取組など地球環境保全を目指す新たな産業構造の構築を図り、社会の活性化、経済の発展に繋がるような新たな産業おこしや既存産業の変革を進める。

2 京都の自然や歴史、文化等知的資源を活かした産業づくり～「つながり」「連携」と人材の育成～

学問・芸術・宗教など高い文化水準に支えられ受け継がれている京都産業の特徴を生かし、自然と文化、歴史と文化、農業と商工業・観光、さらには大学などさまざまな分野との連携とそれを繋ぐ人材の育成により新たな産業の振興を図る。

3 地域発の新しい産業づくり～「地域の宝」の活用とモデルづくり～

京都の伝統や文化、自然、景観などの豊富な地域資源(地域の宝)を活用し、地域の実情や課題に応じた新たな産業興しのためのモデル作りと、人的交流の促進を図る。

4 イキイキとしたワーク・ライフの実現

府民一人ひとりが個々の希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が可能なライフスタイルを送ることのできる環境づくりを推進し、自己の能力を最大限に引き出して、持続的に発展することができる社会の実現を目指す。

○ 「明日の京都」ビジョン懇話会における今後の提言

「産業・労働部会」においては、商工業・農林水業等産業関係及び雇用・労働関係に関し、「明日の京都」の方向性について協議を行ってきた。

その内容について、上記のとおり4つの視点を基本に部会報告として提出することとしたが、4回にわたる協議を通じて明らかになったことは、私たちの部会に与えられた課題は、この部会内だけで完結するものではなく、他の部会とも深い関連を有するという点である。

たとえば、地球環境の保全が喫緊の世界的課題となっている現在、産業振興と環境保全は切っても切り離せない関係であり、私たちは、地球環境保全を進めることが社会・経済を活性化させ、京都の産業振興につながるような新たな取組を提言しているが、これは、文化・環境部会で協議されている内容と合わせた総合的な視野がなければ実現し得ないであろう。

また、歴史、文化、ものづくりの伝統など、世界に誇る京都の資源を活用する点については、同じく、文化・環境部会との連携が必要である。

さらに、とりわけ、京都府北部地域においては、鉄道網、道路網等の社会基盤整備が産業、観光、地域振興のいずれの面でも大きな影響を及ぼす。舞鶴港の積極的活用を図るためにも、京都府の南北軸をどのように考えるかは、大きな課題であり、この点では、安全・基盤部会との連携が重要となる。

加えて、男女共同参画のさらなる推進を図り、府民一人一人が生き生きとしたワークライフを送るためには、子育てや保育、あるいは介護等福祉・医療分野との関連があるし、産学公連携による新産業の創出や職業能力の開発等様々な局面においては教育のあり方との関連も欠かせない。

私たちは狭義の産業・労働分野のみならず、このような関連分野に関する事項についても、必要な部分はこの報告の中でも言及したが、今後、各部会の報告に基づき、全体会での協議を進める中で、全体的調整と総合的な提言を行っていくことが必要であると考えている。

「明日の京都」ビジョン懇話会 産業・労働部会提案

中心テーマ 歴史と伝統あるものづくりを極めるとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現すること

検討事項	背景・基本方向	ミッション	成果目標
<p>サステナビリティ社会に向けた新産業の創出</p>	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球環境の維持のためCO2排出量の大幅削減が必要 環境と経済の共生を実現することが必要 <p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都議定書誕生の地としてサステナビリティ社会の実現に向け京都が世界の先進モデルとなる 環境対応と経済活性化が共生するシステム作りに京都がチャレンジする そのため、産業面からの具体的アプローチを進める 	<p>○府内企業の経営のあり方を見直し、持続可能な企業活動に向けてあらゆる産業でエコ化への展開を推進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「エコ・チャレンジモデル企業」への総合支援 →50の先進的取組の推進 エコ経営企業への税制・融資・公共入札等での支援 産学公連携による中小企業への経営・技術サポート 老舗の経営の真髄であるサステナビリティの推進 モデルフォレスト運動やカーボンオフセットの推進 </div> <p>○地球環境保全に貢献し、京都経済を牽引するエコ産業の創出と育成 (新世代電池、太陽光・風力・バイオマス等の新エネルギーをはじめとする環境対応技術の研究・開発・産業化のグローバル拠点京都の実現)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 環境技術に関する世界的研究・交流拠点「京都けいはんなエコビレッジ」の整備 融資・税・補助金の一体化支援によるエコ産業の立地集積の実現 グローバルな産学公連携拠点の形成 有機農業や環境にやさしい農業の普及・拡大 </div> <p>○世界に誇る環境京都のライフスタイル作りを産業界が積極的に推進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「京都力結集エコ住宅」の開発・普及 伝統産業、商業、サービス業分野等が一体となった「京都エコ生活」の提案 太陽電池、LED等エコ技術のライフスタイルの中での活用促進 </div>	<ul style="list-style-type: none"> エコ・チャレンジモデル企業 年/〇〇社 エコ経営企業認証数 年/〇〇社 モデルフォレスト参加企業 年/〇〇社 カーボンオフセット参加企業 年/〇〇社 エコ関連企業の立地件数 年/〇〇件 農業用施設・機械への省エネ・低炭素型機種への導入率 〇〇% 農業水路等への小水力発電施設の設置数 〇〇基 エコ住宅の着工件数 年/〇〇件 京都エコ生活提案企業数 年/〇〇件

「明日の京都」ビジョン懇話会 産業・労働部会提案

中心テーマ 歴史と伝統あるものづくりを極めるとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現すること

検討事項	背景・基本方向	ミ ッ シ ョ ン	成果目標
<p>成長するアジアとの経済交流のあり方</p>	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化・人口減少の進展により経済成長の低下が懸念される ・ 成長が著しい中国等アジア諸国との経済交流の促進により新たな発展の枠組みを構築することが必要 <p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アジアに貢献する京都」を確立し、アジアとの経済交流を促進する ・ 京都舞鶴港の機能を高め、環日本海貿易の拠点化を促進する 	<p>○アジア地域と相互協力のパートナーシップを確立し、経済、環境、観光等の相互交流を促進</p> <p>・ 「アジア・京都経済人会議」の創設（人的ネットワークの構築）</p> <p>・ 「アジア・京都産学公交流モデル事業」の創設</p> <p>※環境やウェルネス分野等での共同研究や人材育成を図る</p> <p>・ アジア諸国からの観光誘客の促進</p> <p>○アジア地域との貿易を促進し、府内中小企業の新たなる事業機会を創出するとともに農林水産業のビジネス的な展開を図る中で、生産物の海外輸出を支援</p> <p>・ アジア貿易サポートセンターの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地の貿易・投資環境や商習慣、京ブランド等の情報収集・発信 ・ 府内企業のアジア進出支援のための専門家等のサポート ・ 現地パートナーとのビジネスマッチングの実施 ・ 府内中小企業の知財戦略づくりをサポート ・ 農林水産産物の海外輸出戦略の確立とサポート <p>○海外の研究機関等の京都への誘致促進により先端技術の開発を促進</p> <p>・ 環境技術に関する世界的研究・交流拠点「京都けいはんなエコビレッジ」への研究機関等の誘致</p> <p>・ 世界の先端産業集積地域との産学公の交流・連携の推進</p> <p>・ 「京都国際立地特区」の整備（税、補助金等の支援）</p> <p>○京都舞鶴港の機能強化等による環日本海の経済交流の活性化</p> <p>・ 中国、韓国、ロシア等への直通航路や国際フェリー、国際クルーズの誘致</p> <p>・ エコポートの推進</p> <p>・ 中国東北部やロシア極東部との新たな物流・人流ルートの開拓</p> <p>・ 京都舞鶴港利用促進パートナーシップ企業の組織化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究者や技術者等の交流人口 年／〇〇〇人 ・ 京都への外国人観光客数 年／〇〇万人 ・ サポート企業数 年／〇〇〇社 ・ 外国研究機関等の府内立地 年／〇件 ・ 舞鶴港の荷取扱量 年／〇〇〇〇TEU

「明日の京都」ビジョン懇話会 産業・労働部会提案

中心テーマ | 歴史と伝統あるものづくりを極めるとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現すること

検討事項	背景・基本方向	ミッション	成果目標
<p>ライフスタイル等の変化に対応したビジネス機会の創出</p>	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルの変化により消費行動が変わってきている ・衣食住の安心や安全を脅かす事件等の多発 <ul style="list-style-type: none"> ・消費のサービス化 ・消費の個性化・多様化 ・ほんもの志向 ・環境志向 ・健康志向 ・安全・安心志向 ・自然志向 <p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の持つ特性を最大限活かし、ライフスタイルの変化に対応した新製品・新サービスづくりを推進し、京都から新しい価値観を世界に発信していく 	<p>○京都の持つ高度なものづくりの技術や伝統文化等の資源を活用した新京都ブランド産業（環境、ウエルネス、映画・映像、試作、IT等）を次世代の京都産業を牽引する新産業として育成</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エコ・チャレンジモデル企業」への総合支援 ・「グローバル産学官連携拠点」の推進（エコ、ウエルネス） ・「京都太秦メディアパーク」の整備推進 ・「京都ユビキタスミュージアム特区推進機構」による新しいビジネスモデルの創出 ・京都試作センター等を活用した試作ビジネスの推進 <p>○歴史と技術を誇る伝統産業の集積を生かし、新たな生活文化を提案、牽引する「感性価値産業」を育成</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都感性価値コンペティション」の開催 ・生活者に感動や共感を与えるものづくりを推進する「京都感性価値ものづくり推進プラットフォーム」の構築 ・消費者ニーズを創造するプロデュース人材の育成・活用 ・伝統のものづくり技術の継承、ものづくり人材の育成 ・ITを活用した商品づくりや販路開拓の推進 <p>○京都の総合力を生かしてライフスタイルの変化に対応し、生活革命を進めることで新たな市場を創造</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都力結集エコ住宅」の開発・普及 ・「スローライフ」「エコライフ」対応ビジネスの振興 ・質の高い観光商品の開発支援（体験・体感ツアー等） ・地域のコミュニティ形成ビジネスの振興 ・農山漁村地域への移住などや農業体験農園への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・新京都ブランドに取り組むベンチャー企業数 年／〇〇〇社創出 ・感性価値による新製品づくりを行う企業 年／〇〇〇社 ・新製品・新サービスを開発する企業 年／〇〇〇社 ・農山漁村地域への移住など、農業体験 年／人、件

○安全で安心できる農産物や食品が生産され、食に関する府民の信頼感を高める（食の安心・安全の推進）

- ・有機農業や環境にやさしい農業の普及・拡大
- ・安全・安心な食品づくりへの支援
（食品の安全性を確保する制度や体制（組織、機器、人員）の充実）
- ・リスクコミュニケーションを広め、府民に食に関する正しい情報を提供

○幼少の時から正しい食情報を持ち豊かな食生活がおくれ、新鮮で生産者の顔が見える府内産農林水産物やその加工品が入手しやすくなる社会を実現（食育・地産地消の推進）

- ・「地産地消」や「旬産旬食」の普及
- ・府内全域の京都府産農林水産物とその加工品を専門に取り扱う「京都産マーケット」の設置・開催
- ・学校、福祉施設や企業食堂の給食での府内産農林水産物及びその加工品の利用量や利用率アップ
- ・府内産農林水産物やその加工品を優先的に扱う販売店・ブース増への支援

- ・特別（減農薬・化学肥料）栽培米の生産面積□□ha→○○ha
- ・環境やさしい農業を実践するエコファーマー認定数□□戸→○○戸
- ・「きょうと信頼食品登録制度」に食品登録事業者数□□業者→○○業者

- ・地元農産物を利用する企業食堂や病院・福祉施設等を「たんとおがり京都府産」施設に認定○○施設
- ・府内全校で地元農林水産物を使った給食○回／週

「明日の京都」ビジョン懇話会 産業・労働部会提案

中心テーマ 歴史と伝統あるものづくりを極めるとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現すること

検討事項	背景・基本方向	ミ ッ シ ョ ン	成果目標
<p>地域資源等を活用した地域経済の活性化</p>	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化、過疎化の進行により府内地域の経済活力の低下が懸念 ・ 農山漁村地域では、65歳以上の人口が50%を越える過疎化・高齢化集落が増加 ・ 農林業は、規模が零細であることに加え、米や木材価格の低迷等により所得低下し、農林業のみでの生計維持が厳しい ・ 農山漁村地域では、地域資源が豊富にあるが活用が不十分 ・ 農山漁村地域では、地域リーダーが不在の集落が多く見られ、集落を維持する機能が大幅に低下 ・ 農山漁村地域や農林水産業に対して“うるおい”や“安らぎ”を求めるニーズが非常に高い <p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性を活かし、地域経済の自立かつ持続的な発展を図る ・ 地域の特性を活かしたオンリーワン発掘の取組を推進 ・ 人と人とのつながりを強め、モデル作りを進めることで、地域の特性に応じた自発的取組を推進 ・ 農林水産物の生産の場としてだけでなく、美しい景観や伝統文化を育む農山漁村地域の維持・保全を図る 	<p>○多様で豊かな地域資源を総合的に活用し、地域の特性を生かした「オンリーワン」モデル作りを推進</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都地域資源活用オンリーワンモデル事業」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ※異業種交流により地域資源（農林水産物等）を活用したオンリーワン商品づくり等の先進的取組に対して支援（助成や専門家によるワンストップ支援）、地域特産物育成支援 ・ 「農商工連携プロジェクト」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林漁業者と商工・観光業者等とのビジネスマッチング ・ 農林漁業の二次産業化、三次産業化の取組を支援（補助、融資、経営サポート） ・ 地域農業の一員となる中小企業など企業の経営の農業参入の促進 ・ 新規就農希望者等への農地、農業用施設・機械及び住宅の移譲・継承の促進 </p> <p>○地域の活力の基礎となる人材の育成と交流のシステムを創造</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域興しプロデュース人材育成塾」の開設 <ul style="list-style-type: none"> ※プロデュース人材の養成講座 ※プロデューサーによる地域おこし実証事業の実施 ・ 商店街、商業者、NPO等の地域資源を活用したコミュニティビジネスへの支援 ・ 過疎・高齢化が進行した地域において行政や自治会の機能を果たす新しい地域マネジメント組織の育成 </p> <p>○地域の知恵と力を結集し、広域の人材交流を実現する次世代観光の実現</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都地域交流促進モデル事業」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ※体験参加型観光（グリーン、エコ、ヘルスツーリズム等）や滞在型田舎暮らし（週末農業、ワーキングホリデー等）プログラムの企画・開発等先進的な取組に対する支援 ※点在する様々な観光資源を有機的に結び付けた新しいツアーの企画・開発に対する支援 ・ 観光を支える人づくりの推進（「観光未来塾」の強化等） </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活用したオンリーワンモデル事業の実施件数 年／〇〇件 ・ 農商工連携の取組件数 年／〇〇件 ・ 新たに開発される地域特産品 年／〇〇件 ・ 地域興プロデュース人材の育成 年／〇〇人 ・ 過疎・高齢化地域での自治会と行政などが協働する新たな地域連携組織数 〇〇組織 ・ 地域交流モデル事業実施件数 年／〇〇件 ・ 農林漁業体験（宿泊）施設数 □□施設→〇〇施設

「明日の京都」ビジョン懇話会 産業・労働部会提案

中心テーマ 歴史と伝統あるものづくりを極めるとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現すること

検討事項	背景・基本方向	ミッション	成果目標
ワーク・ライフ・バランスの実現	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非正規雇用者が増大し（雇用者の40%）、経済的に自立出来ない層が増加 ・一方、所定外労働時間が増加し、心身疲労による健康被害 ・子育てや介護を行う者や障害者等の社会的に弱い立場にある方々の雇用情勢は厳しさを増している。 ・子育てや介護を行いながら働ける環境が十分整っていない ・男性の働き方の見直しと、女性が出産・育児等のライフステージの中で就業継続または就業中断後の再チャレンジによって経済的自立を図るための環境整備が必要 <p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府民一人ひとりが自己の能力を最大限活かし、安心して働き続けられる環境づくりや仕事と生活が両立する豊かな生活の実現を目指す 	<p>○ワーク・ライフ・バランスの実現を図るため、就業環境の整備や働き続けやすい環境づくりなどをオール京都体制で推進</p> <p>①常用雇用を促進するための新たな支援の枠組みの構築</p> <p>・第3次アクションプランを策定し、平成22年度から26年度の4年間で4万人の雇用を実現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都総合就業支援ネットワーク」の構築 ※職業訓練から就業、職場定着まで総合的なサポート ・「就業・生活支援ネットワーク」の構築 ※就職活動や雇用の前提となる生活支援（保育、介護の支援、住宅確保等）を総合的に行い、社会的に弱い立場にある方の就業支援 ・「人にやさしい企業」認証制度の創設と認証企業に対する優先的発注制度の導入（障害者雇用に積極的に取り組む企業への支援） <p>②ワーク・ライフ・バランスを推進するための新たな枠組みの構築</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスを促進するため、オール京都体制で推進運動を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公労使等による組織体制の整備 ・ワーク・ライフ・バランス推進員・アドバイザーの設置 ・理念、支援制度の普及啓発、取組実践の働き掛け ・積極的に取り組む企業と、そこで生き生きと働く人たちを紹介する広報番組の作成 ・「WLBポータルサイト」（ワンストップサービス）の開設 <p>○仕事と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都モデル」子育て応援中小企業認証制度の拡充 ※「仕事と子育ての両立支援」に加え「仕事と介護の両立支援」に拡大 ・子育て支援を行うため、企業内保育施設の設置等への支援 <p>○ライフステージに応じた多様な働き方のできる環境整備や技術開発（テレワークの推進、介護ロボット等の導入促進等、<u>半農半X的生活</u>のための条件整備）</p> <p>※一人ひとりが天の意に沿う持続可能な小さな暮らし（農的生活や小さな市民農園でも良く自ら自給する暮らし・・・）をベースに、天与の才（X＝使命・ミッション、個性、長所、役割・・・）を世のために活かし、社会的使命を実践し、発信し、全うしていく生き方。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常用雇用の創出 年／〇〇万人 ・非正規雇用率 〇〇%以下を目指す ・障害者雇用率 〇〇%以下を目指す ・ワークライフバランス推進に取り組む組む中小企業数 年／〇〇〇社

		<p>③地域コミュニティにおけるワーク・ライフ・バランスの取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職任一体型のライフスタイルの提案 ・地域コミュニティづくりの推進(NPO等と連携した子育て・介護支援) ・地域のワーク・ライフ・バランス活動を広く担う「地域公共人材」の育成 ・「京都モデル」地域活動応援中小企業認証制度の創設 <ul style="list-style-type: none"> ※「仕事と地域活動の両立」に取り組む中小企業への応援 ・農家における家族経営協定の取組強化 <ul style="list-style-type: none"> ※農家において農業経営の目標や報酬の配分、休日の取り方、家事労働の分配等を取り決め、明文化する協定 ・女性の就業継続支援及び再就職支援、男性の家事・育児参加や地域活動参加の促進(セミナー、モデル事業等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動応援中小企業数 年／〇〇〇社 ・家族経営協定の締結数 □□件→〇〇件
	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域は、食料や水、空気の供給、景観や文化の保全、災害の防止など府民生活を支える「命の里」 ・農山漁村地域では、65歳以上の人口が50%を越える過疎化・高齢化集落が増加 ・農山漁村地域では、地域リーダーが不在の集落が多く見られ、集落を維持する機能が大幅に低下 ・農山漁村地域や農林水産業に対して“うるおい”や“安らぎ”を求めるニーズが非常に高い <p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産物の生産の場としてだけでなく、美しい景観や伝統文化を育む農山漁村地域の維持・保全を図る 	<p>○農山漁村地域が「ワーク・ライフ・バランス」実現にふさわしい地域となるよう各種定住条件を整備するとともに、地域がもつ様々な地域課題の解決に向けた地域の自立的な取組を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と地域の間際に位置し、「新たな公」ともいうべき役割を果たす新しい地域組織や法人の育成 ・住宅確保に加え、子育てや教育、福祉や医療等の定住ミニマムの整備・確保 ・スクールバス、路線バスなどの生活交通の最適化や自治会での自主運行など、交通弱者の足の確保の取組への支援 ・高齢者等を見守るネットワークの構築や除雪など地域ぐるみで高齢者の暮らしを支える仕組みの構築 ・新しい時代に即した魅力あるライフスタイルの1つとして農林水産業や農山漁村地域の良さを都市に向け情報の収集・発信 ・農山漁村地域の様々な雇用の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と行政等が協働する新たな地域連携組織数 〇〇組織

(参考資料)

■ 産業・労働部会の開催経過

	日時・場所	内容
第1回	平成21年6月15日(月) 15:00~17:00 府庁 政策企画部会議室	・専門部会の進め方、アウトプットについての確認 ・専門部会における検討事項についての確認
第2回	平成21年7月13日(月) 9:30~11:30 府庁 政策企画部会議室	・次のとおり、テーマに基づき、ゲストスピーカーを招聘し、議論 ①「 <u>ワーク・ライフ・バランス社会の実現</u> 」について 岡民子氏(株式会社ナベル取締役 社長室長) ②「 <u>地域活性化や魅力あるライフスタイル実現に向けた取組</u> 」について 名古屋弘氏(美山町知井振興会会長) ③「 <u>地域資源等を生かした地域経済の活性化</u> 」について 飯尾毅氏(株式会社飯尾醸造代表取締役)
第3回	平成21年7月29日(水) 9:00~11:30 府庁 政策企画部会議室	・次のとおり、テーマに基づき、ゲストスピーカーを招聘し、議論 ①「 <u>魅力あふれる農業ビジネスモデルの実践</u> 」について 山田敏之氏 (農業生産法人こと京都株式会社代表取締役社長) ②「 <u>消費者の価値観の変化に対応したビジネス機会の創出</u> 」について 津田純一氏(株式会社井筒八ツ橋本舗代表取締役社長) ③「 <u>成長するアジアとの経済交流のあり方</u> 」について 長島善之氏(長島精工株式会社代表取締役社長) ④「 <u>地球環境保全に向けた産業振興のあり方</u> 」について 熊野英介氏(アマタ株式会社代表取締役社長)
第4回	平成21年9月10日(木) 9:30~11:30 府庁 政策企画部会議室	・第2回、第3回部会でのゲストスピーカーからのスピーチを踏まえ、事務局が作成した「産業・労働部会提案(案)」について、関係部局から説明後、意見交換

■ 第2回~第4回の会議概要

別添のとおり